

早生ナシ「早優利」、「凜夏」の盆前収穫技術を確立

京都府丹後地域におけるナシ栽培では、中晩生品種への偏重により労働力が集中し、生産や品質が安定していません。そこで京都府農林水産技術センター丹後農業研究所では良質な早生品種の「早優利」、「凜夏」の導入による労働力分散とともに、生産安定と収益向上を図るために盆前収穫技術を開発したので紹介します。

☆技術の概要

- 「早優利」は果実肥大促進を目的に、満開約14日後の本摘果及び満開30日後のジベレリンペースト剤処理を併用することにより、7月下旬に2Lサイズの果実が収穫可能になります。また「凜夏」は収穫期前進を目的に、満開30日後にジベレリンペースト剤処理することで8月10日前後に収穫可能になります(表1)。
- 品種転換することにより、経営全体で評価すると、約55,000円/10aの所得向上が可能になります(表2)。
- 本栽培技術により「早優利」、「凜夏」ともに高価格が期待できるお盆需要に対応できます(図1)。

表1 開発した管理での特性(2015~2017年の3年平均)

品種	試験区	収穫始	収穫盛期	収穫終	果実重(g)	糖度(Brix)	pH
早優利	早期摘果+GA処理	7/24	7/27	8/3	322	13.3	4.6
	対照	8/4	8/6	8/10	253	13.4	4.7
凜夏	GA処理	8/9	8/12	8/14	539	11.3	4.7
	対照	8/17	8/21	8/24	518	11.8	4.7

表2 ゴールド二十世紀を早生ナシに転換した経営収支例

類型	粗収入(千円)	経営費(除雇用)(千円)	雇用費(千円)	所得(千円)
G二十世紀100a+新興20a	12,300	5,651	567	6,082
G二十世紀70a+新興20a+早優利30a	12,525	5,522	326	6,677
G二十世紀70a+新興20a+凜夏30a	12,750	5,589	420	6,741
G二十世紀70a+新興20a+早優利15a+凜夏15a	12,638	5,556	362	6,720

(ゴールド二十世紀100a+新興20aの類型を仮定し、そのうち、ゴールド二十世紀の30%を転換するとした)

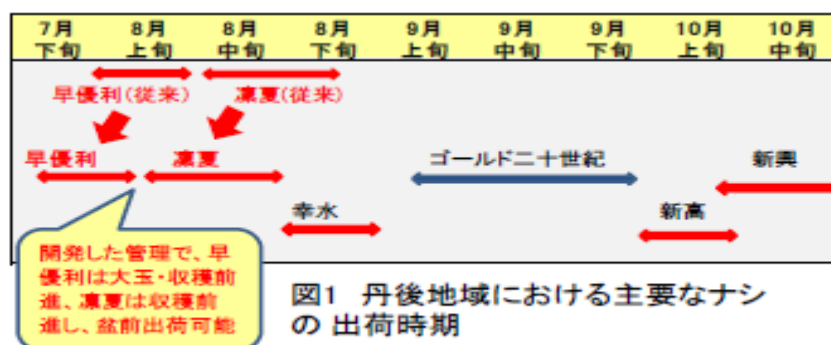


図1 丹後地域における主要なナシの出荷時期

☆活用面での留意点

- 苗木は各苗木業者で販売されています。
- 購入苗の芽を既存樹に高接ぎすることで早期に品種転換が図れます。
- 既存の「ゴールド二十世紀」に高接ぎしても収穫期・品質は同様です。
- 詳細については京都府農林水産技術センター丹後農業研究所(0772-65-2401)にお問い合わせください。

(農研機構果樹茶業研究部門 研究推進部 果樹連携調整役 大崎 秀樹)